第１学年　国語科学習指導案

１．単元　　　ちがいをかんがえてよもう
「どうぶつの赤ちゃん」　関連教材「うさぎの赤ちゃん」

２．指導の考え方

〇　子どもの実態

本学年の子どもたちは，これまでに「いろいろなくちばし」「じどう車くらべ」という二つの説明文の学習をしてきている。「いろいろなくちばし」では，挿し絵と叙述をつないで読み，問いと答えの構成から，くちばしの形が食べ物と深いつながりがあることを読み取る学習をした。また，「じどう車くらべ」では，「そのために」という言葉に着目することで，仕事とつくりにつながりがあることを読み取る学習をした。これらの学習を通して，挿し絵と叙述をつないで読み取る力，問いをもとに答えを読み取る力を身に付けてきている。

しかし，語彙力や文字を読む力に個人差があり，書かれていることの大体を読み取ることがまだ十分ではない。

「関連づけて読む」活動については「いろいろなくちばし」から「くちばしのほかのところもべんりにできているのかな。」という課題を生み出し，教科書教材と比べながら関連自作教材「いろいろなあし」を読むことによって，鳥の足も，それぞれが生活しやすいように便利にできているという共通点を明らかにした。この活動を通して，生き物の体のつくりと生活には深い関係があるという見方・考え方を深めることができるようになっている。また，「じどう車くらべ」では「ほかののりものも，しごとがしやすいつくりになっているのかな」という課題を生み出し，教科書教材と比べながら関連教材「ふねくらべ」を読むことによって，船も車と同じようにしごとがしやすいつくりになっているという共通点を明らかにした。この活動を通して，働く乗り物のつくりとしごとには深い関係があるという，見方・考え方を深めることができるようになってきている。

〇　教材の価値・特質

教科書教材は，子どもたちの興味をかき立てる動物の赤ちゃんを題材に，「どうぶつの王さま」と言われるライオンの赤ちゃんと，そうではないしまうまの赤ちゃんの違いについて述べられた説明文である。この説明文には，親が強い肉食動物のライオンは子どもが親とあまり似ておらず弱々しいこと，親が強くない草食動物のしまうまは生まれたときから親にそっくりでしっかりしていることが書かれている。この２つを比べて読むことで，親が強い動物は戦って子どもを守ることができること，親が強くない動物は一緒に逃げることで子どもを守っていることを読み取ることができ，親によって子どもを守る方法が違うことが説明されている。

文章構成の特質としては，冒頭に２つの問題提示文が分かりやすく示され，ライオンとしまうまを比較する形で書かれている。また，成長ごとに大きな３つのまとまりがあり，その中で，目や耳の様子，歩くときの様子など，具体的に８つの特徴をもとに書かれている。このことから，肉食動物であるライオンの赤ちゃんと草食動物であるしまうまの赤ちゃんの様子を比べて，二者の違いと違いのわけを読み取るのに適した説明文であるといえる。

文章表現の特質としては，二者の成長の早さの違いを時間の経過について表す言葉を使ったり，赤ちゃんの大きさを，「～ぐらい」と子どもたちの身近な生き物に例えたりすることによって，様子がよく分かり，比べやすくなっている。

関連教材は，「ノウサギ」「アナウサギ」という２種類のウサギの赤ちゃんの様子が分かるように教科書教材を参考にして作成した説明文である。親があまり強くはない草食動物のウサギだが，巣を作って子どもを育てるアナウサギに限っては，生まれてくる赤ちゃんが弱々しいことが書かれており，同じ草食動物のウサギでも親が子どもを守る方法によって，生まれたときの様子，大きくなっていく様子が違うことを読み取ることができる。このことから，どの親も様々な方法で子どもを守っているという見方・考え方を深めるのに適した教材である。

〇　指導にあたって

読みのめあて

題名から生まれた「どんな動物の赤ちゃんが出てくるのかな。」「赤ちゃんってどんなふうに大きくなるのかな。」という疑問を意識しながら，冒頭を読む。ここでは，冒頭の問題提示文「生まれたばかりのときは，どんなようすをしているのでしょう。」「どのようにして，大

きくなっていくのでしょう。」から，生まれたばかりの様子と，大きくなっていく様子を読み取っていくことを明確にする。さらに，単元名「ちがいをかんがえてよもう」とつなぐことで，動物によって赤ちゃんの様子や成長の様子が違うことを知り，読みのめあて「どうぶつの赤ちゃんは生まれたばかりのときは，どんなようすをしているのかな。どのようにして大きくなっていくのかな。くらべてよもう。」を生み出す。

予　見

読みのめあてにそって全文を読み通し，叙述を基にライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりと大きくなっていく様子を，８つの観点から表に書きまとめさせる。そして，読み取ったことをもとに，二者を比べてその違いについて話し合い，予見の方向付けをする。

学習計画

ライオン・しまうまの赤ちゃんの様子からよく分からないことを出し合い，どんな様子なのか考えたり，ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの様子の違いから，どうしてこんなに違うのかという疑問をもったりしながら，これから読み深め・確かめていく計画を立てる。

読み深め・確かめ

ライオン・しまうまの赤ちゃんの様子をまとまりごとにくわしく読み，２種類の動物の違いを比べ，どうしてこんな違いがあるのか，違いのわけについて読み深め・確かめていく。

読み・読み方のまとめ

これまでの読みを振り返り，親が子どもを守る方法（ライオンは戦って守る，しまうまは一緒に逃げて守る）によって，赤ちゃんの様子が違うことについてまとめる。そして，事柄の順序を読む読み方，挿し絵と叙述をつないで読む読み方，事柄と事柄とを比べて読む読み方，接続語を読む読み方について「読み方の種」としてまとめる。

「関連づけて読む」活動

親の子どもの守り方によって赤ちゃんの様子に違いがあることを学習した「どうぶつの赤ちゃん」と，巣を作るかどうかで赤ちゃんの成長の様子に違いがあるという「うさぎの赤ちゃん」とを「関連づけて読む」ことによって，どの親も様々な方法で子どもを守っているという見方・考え方を深める。

３．単元の目標

○　ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの生まれた時の様子と大きくなっていく様子を比べることで，親が子どもを守る方法の違いによって赤ちゃんの様子に違いがあることを読み取ることができる。

○　時間の経過を表す言葉に着目し，事柄の順序を読む読み方，挿し絵と叙述をつないで読む読み方，事柄と事柄とを比べて読む読み方を身に付けることができる。

○「どうぶつの赤ちゃん」で生じた「ほかのどうぶつの赤ちゃんはどうなのかな。」という課題をもって「うさぎの赤ちゃん」と「関連づけて読む」活動を取り入れることで，どの親も様々な方法で子どもを守るという見方・考え方を深めることができる。

４．学習計画（全１４時間）

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点 (◎基礎・基本の重点,※「関連づけて読む」活動に関して)
読みのめあて	１	１　題名と冒頭をつないで読みのめあてを生み出す。 (1) 題名を読んで，考えたことや疑問に思ったことを話し合う。 (2) 題名で生じた疑問と冒頭をつないで読みのめあてをつくる。	※　今までにどんな動物の赤ちゃんを見たことがあるか想起させ，動物の図鑑を用いて，動物の赤ちゃんのイメージをふくらませる。 ○　題名と冒頭をつなぐことで，生まれたばかりの様子，大きくなっていく様子を比べていくことや，動物によってどんな違いがあるか考えていくことを確認する。
		〔読みのめあて〕 どうぶつの赤ちゃんは，生まれたばかりのときは，どんなようすをしているのかな。どのようにして大きくなっていくのかな。くらべてよもう。	
	２ ３	１　読みのめあてに沿って全文を読み通し，予見を書きまとめる。 ・　観点に ―― ，様子に 〰〰 を引く。 ２　個人の予見を交流し，予見を方向付ける。	○　書きまとめる８つの観点（大きさ，目や耳，親に似ているか，立ち上がる，歩く，走る，おちちを飲む，自分で食べる）を話し合い，表に書きまとめる。 ○　ライオンとしまうまの赤ちゃんの頃の様

段階	時	学習活動	支援
予見			子を比べて，予見をまとめさせる。

	ライオン	しまうま
大きさ	子ねこぐらい	もう，やぎぐらい
目や耳	とじたまま	目はあいていて，耳もピンと立っている
にているか	よわよわしくて，あまりにていない	おかあさんにそっくり
立ち上がる		生まれて三十ぷんもたたないうちに立ち上がる
歩く	じぶんでは，あるけない	
はしる		つぎの日
おちち	二ヶ月ぐらい	たった七日
たべる	一年くらいたつとえもののとりかたをおぼえる	そのあとは，じぶんで草もたべるようになる

〔予見の方向〕
ライオンとしまうまは，生まれたときの大きさ，様子，成長の早さなどがちがう。

段階	時	学習活動	支援
学習計画	4	1　予見をもとに，疑問を出し合い，読み確かめていく計画を立てる。 ・　生まれたばかりの時 ・　歩けるようになるまで ・　自分でえさを食べるようになるまで	○　それぞれが大きくなっていく様子を比べながら，疑問に思うことを出させる。 ○　ライオンとしまうまの赤ちゃんが大きくなっていく様子を，叙述を基に３つのまとまりで考えていくようにする。

〔学習計画〕
○　ライオンとしまうまの赤ちゃんは，どこが，どのようにちがうのかな。
○　ライオンとしまうまの赤ちゃんは，なぜ，こんなにちがうのかな。
読み深め・確かめ①　生まれたばかりの時の様子を比べて読む。
読み深め・確かめ②　自分で歩けるようになるまでの様子を比べて読む。
読み深め・確かめ③　自分でえさを食べるようになるまでの様子を比べて読む。

段階	時	学習活動	支援
読み深め・確かめ	5	1　ライオンとしまうまの生まれたばかりの時の様子を読んでいくことを確認する。 2　挿し絵から分かることを発表する。 3　生まれたばかりの時の様子の違いを読み取り，そのわけを話し合う。 ○　ライオンの赤ちゃんが弱々しいのは，親が強いからだということをとらえること ○　しまうまの赤ちゃんがしっかりしているのは，親が強くないからだということをとらえること 4　生まれたばかりの様子の違いと，そのわけについてまとめをする。	○「大きさ」「目や耳」「親に似ているか」の３つの観点に沿って考えさせる。 ○「子ねこぐらい」「もうやぎぐらい」という叙述を基に，赤ちゃんの大きさを具体的にイメージできるようにする。 ◎　ライオンは「どうぶつの王さま」という叙述と既存の知識を結びつけることで，ライオンは親が強いことを確認させる。 ○　赤ちゃんの様子が違うわけは，親の強さに関係がありそうだということに着目させながら，まとめさせる。

ライオンの赤ちゃんはおかあさんがどうぶつの王さまだから，小さくてよわよわしくても，まもってもらえる。だけど，しまうまの赤ちゃんは，おかあさんがどうぶつの王さまではなく，まもってもらえないから，生まれたときから大きくてしっかりしている。

段階	時	学習活動	支援
	6 【○組本時】	1　ライオンとしまうまの自分で歩けるようになるまでの様子を読んでいくことを確認する。 2　挿し絵から分かることを発表する。 3　自分で歩けるようになるまでの様子の違いを読み取り，そのわけを話し合う。 ○　ライオンの赤ちゃんは，親が動物の王様で強いので，生まれつき一人では何もできないことをとらえること	○「立ち上がる」「歩く」「走る」の３つの観点に沿って考えさせる。 ◎　前時で学習した「ライオンはどうぶつの王さま」という叙述とつないで，ライオンは親が強いこと，しまうまは強い動物に襲われる立場にあることをとらえさせる。

		○　しまうまの赤ちゃんは，親と一緒に逃げなくてはいけないので，生まれてから三十分という短い時間で立ち上がらなければならないことをとらえること 4　自分で歩けるようになるまでの様子の違いと，そのわけについてまとめをする。	◎「三十ぷんもたたないうちに」「つぎの日には」という時間の経過を表す言葉に着目させることで，しまうまの成長の早さに気付かせる。 ○　赤ちゃんの様子が違うわけは，親の強さに関係がありそうだということに着目させながら，まとめさせる。
		ライオンの赤ちゃんは，おかあさんがまもってくれるので，あるきだすのがおそい。だけど，しまうまの赤ちゃんは，おかあさんがたたかえないので，いっしょににげることができるように，あるきだしたり，はしりだしたりするのがはやい。	
	7	1　ライオンとしまうまの自分でえさを食べるようになるまでの様子を読んでいくことを確認する。 2　挿し絵から分かることを発表する。 3　自分でえさを食べるようになるまでの様子の違いを読み取り,そのわけを話し合う。 ○　ライオンの赤ちゃんは，親が守ってくれるので，成長が遅いことをとらえること ○　しまうまの赤ちゃんは，親と一緒に逃げなければならないので，赤ちゃんの成長が，早いことをとらえること 4　自分でえさを食べるようになるまでの様子の違いと，わけについてまとめをする。	○「おちちを飲むこと」「自分で食べること」という２つの観点に沿って考えさせる。 ◎　前時で学んだ「ライオンのお母さんはつよい」「しまうまのお母さんは，つよいどうぶつにおそわれる」ということとつないで考えさせる。 ◎「一年ぐらいたつと」「たった七日ぐらい」を比べることで，しまうまの成長の早さに気付かせる。 ○　赤ちゃんの様子が違うわけは，親の強さや食べ物に関係がありそうだということに着目させながら，まとめさせる。
		ライオンの赤ちゃんは，じぶんでえものをとることができないけれど，つよいおかあさんがとったえものをたべさせてもらえる。だけど，しまうまの赤ちゃんは，つよいどうぶつにおそわれたときに，いつはぐれるのかわからないので，たった七日でじぶんで草をたべることができるようになる。	
読み・読み方のまとめ	8	1　学習したことをもとに，読みのまとめをする。 ・　様子の違いを想起し，初めて知ったことやすごいと思ったことを書きまとめる。	○　ライオンとしまうまは，親の子どもの守り方の違いによって赤ちゃんの生まれたときの様子や成長の早さが違うことを振り返らせる。
		ライオンは，おかあさんがどうぶつの王さまでとてもつよく，たたかってまもってくれるから，赤ちゃんがよわよわしくて，せいちょうがおそい。しまうまは，ほかのどうぶつからおそわれてしまうので，おかあさんが，いっしょににげて，赤ちゃんをまもる。だから，しまうまの赤ちゃんは，生まれたときからしっかりしていて，せいちょうがはやい。 赤ちゃんのちがいは，おやが子どもをまもるほうほうにかんけいがある。	
		2　読み方のまとめをする。 ○　事柄の順序を読む　○　接続語を読む ○　事柄と事柄を比べて読む	※　動物の赤ちゃんの写真を見て，赤ちゃんのころの様子が，ライオンに似ているのか，しまうまに似ているのか仲間わけをし，問題意識を高める。 ○　側面に掲示してある学習の足跡をもとに，内容の読みに使った読み方を振り返り，「読み方の種」としてまとめる。
関連づ	9	1　学習した３つのまとまりを想起しながら「ノウサギの赤ちゃん」を読む。 ・　生まれたばかりの時　・　歩けるようになるまで ・　自分でえさを食べるまで	○　うさぎが，どのようにして大きくなってくのか，ライオンやしまうまと比べながら読ませる。 ※　３つのまとまりを意識して読ませる。

けて読む		2　ノウサギの赤ちゃんが大きくなっていく様子を読み取る。 3　ライオンやしまうまのどちらに似ているかと，そのわけを考える。 ○　生まれた時からしっかりしており，しまうまに似ていることをとらえること ○　草食動物であり，親も，しまうまに似ていることをとらえること 4　ノウサギの赤ちゃんでよく分かったことや，初めて知ったことを書きまとめる。	※　学習した８つの観点を基にして読み取るように助言をする。 ※　学習の足跡の掲示物を使い，ライオン・しまうまと比べることで，どこが，どのように似ていると思うのか，視点をはっきりさせる。 ○　時間の経過を表す言葉に着目させて書きまとめさせる。
		ノウサギの赤ちゃんは，しまうまとにていて，生まれたときからしっかりしている。 ノウサギのおかあさんは，いっしょににげることで，赤ちゃんをまもっている。	
	10 【○組本時】	1　学習した３つのまとまりを想起しながら「アナウサギの赤ちゃん」を読む。 ・　生まれたばかりの時　　・　歩けるようになるまで ・　自分でえさを食べるまで 2　アナウサギの赤ちゃんが大きくなっていく様子を読み取る。 3　ライオンやしまうまのどちらに似ているかとそのわけを考える。 ○　生まれた時は，弱々しくて，ライオンに似ていることをとらえること ○　自分では歩くことができないので，ライオンに似ていることをとらえること ○　３週間はおちちだけを飲んでいるので，ライオンに似ていることをとらえること ○　親はしまうまに似ていることをとらえること 4　アナウサギの赤ちゃんでよく分かったことや，初めて知ったことを書きまとめる。	○　同じうさぎの仲間である「アナウサギ」がどのようにして大きくなっていくのか，ライオンやしまうまと比べながら読ませる。 ※　３つのまとまりを意識させて読ませる。 ※　学習した８つの観点を基にして読み取るように助言をする。 ※　学習の足跡の掲示物を使い，ライオン・しまうまと比べることで，どこが，どのように似ていると思うのか視点をはっきりさせる。 ※　親が赤ちゃんを守る方法として「巣を作って子どもを隠す」という方法もあることに気付かせ，次時でそのことを明確にしていくことを意識付ける。
		アナウサギの赤ちゃんはライオンとにていて，一人ではなにもできない。 だから，アナウサギのおかあさんは，土の中にすをつくって，赤ちゃんをかくしてまもる。アナウサギのおかあさんは，かくすことで，赤ちゃんをまもっている。	
	11	1　ノウサギの赤ちゃんと，アナウサギの赤ちゃんを比べて読む。 2　同じうさぎなのに，生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子が全く違うわけについて話し合う。 3　２つを比べて分かったことと，「動物の赤ちゃん」をつないで，学習のまとめをする。	○　共通点と相違点を見つけさせる。 ※　同じうさぎでも，親が子どもを守る方法の違いによって，赤ちゃんの様子が違うことに気付かせる。 ※　子どもを守る方法として「ライオン＝戦う」「しまうま＝逃げる」のほかに「隠す」方法もあることに気付かせ，赤ちゃんと親との関係について調べる意欲をもたせる。
		おやが子どもをまもるほうほうとして ライオンはたたかってまもる，しまうまやノウサギはいっしょににげることでまもる アナウサギはかくすことでまもる，というほうほうがある。 どうぶつは，それぞれのほうほうで，子どもたちをまもっている。	
書く	12 13 14	1「どうぶつの赤ちゃん」の本を書きまとめる。	○　学習したことをもとに，動物の赤ちゃんについて，分かったことを書きまとめる。 （視点）親の強さ（子どもの守り方），食べ物

第１学年○組　（公開授業○）

５．本　時（１０／１４）　関連づけて読む

６．本時の目標

○　アナウサギの赤ちゃんの様子について，ライオンとしまうまの赤ちゃんで学習したことと関連づけて読むことによって，親が子どもを守る方法についての見方・考え方を深めることができる。

○　挿し絵と叙述をつないで書かれている内容を正しく読む読み方，時間の順序や事柄の順序に気を付けて読む読み方を活用することができる。

７．本時指導の考え方

前時までに，子どもたちは，「どうぶつの赤ちゃん」に書かれていた８つの観点をもとに「ノウサギの赤ちゃん」についての説明文を読み，ノウサギの赤ちゃんの様子を読み取る学習を行っている。

本時は，アナウサギの赤ちゃんとライオンの赤ちゃん・しまうまの赤ちゃんとの共通点や相違点を明らかにして，動物の親が子どもを守る方法についての見方・考え方を深める学習である。

そこで，本時指導にあたっては，まず，「どうぶつの赤ちゃん」で学習した，大きさ，目や耳といった８つの観点に沿って確かめていきながら，具体的にイメージできない叙述については，写真とつないだり，視覚資料を掲示したり，話し合いをさせたりすることによって理解できるようにする。その上で，アナウサギの赤ちゃんはライオンの赤ちゃん・しまうまの赤ちゃんのどちらに似ているのかについて話し合い，ライオンの赤ちゃん・しまうまの赤ちゃんとの共通点や相違点を明らかにするとともに，親が子どもを守る方法についての見方・考え方を深めていく。

そして，今日の学習で分かったことを書きまとめ，発表し合うことによって，動物の赤ちゃんの様子の違いには，親が関係していること，その中でも親が子どもを守る方法についての見方・考え方の深まりを実感できるようにする。最後に，前時で学習した「ノウサギ」の赤ちゃんと比べ，同じ「ウサギ」の仲間なのに，生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子に違いがあることに気付かせ，動物の赤ちゃんについて調べる意欲をもたせる。

８．板書計画

ちがいをかんがえてよもう

どうぶつの赤ちゃん

がくしゅうのめあて

アナウサギの赤ちゃんの生まれたばかりのようすや、大きくなっていくようすをよんで、ライオンの赤ちゃんやしまうまの赤ちゃんとくらべよう。

生まれたばかりのときのようす

大きさ　目や耳　にているか

子どものひとさしゆびくらい

とても小さい

十日ほどで　目がひらいてくる

けも　はえていない

にていない。

じかんのけいかをよむ

ライオンににている

あるけるようになるまで

立ち上がる　あるく

じぶんでうごけない

ねてばかりいる

よわい赤ちゃん

三しゅうかんいじょうたって

ようやく　あるきはじめる

ライオンににている

じぶんでえさをたべるまで

おちちをのむ　たべる

三しゅうかんくらい

おちちだけのんでいる

一か月たつと

じぶんで草をたべる

ことばをくらべてをよむ

○生まれてすぐは、うごけない…すがあるからだいじょうぶ

○おかあさんは、よわいけれど、すをつくるのがうまい↓かくす

ライオンに　にている

がくしゅうのまとめ

アナウサギの赤ちゃんはライオンとにていて、一人ではなにもできない。

だから、アナウサギのおかあさんは、土の中にすをつくって、赤ちゃんをかくしてまもる。

９．本時の展開

<table>
<tr><th>学習活動と内容</th><th>指導上の留意点（※「関連づけて読む」活動に関して）</th></tr>
<tr><td>1　本時のめあてを確認する。

〈学習のめあて〉</td><td>※　前時までに学習した８つの観点（大きさ,目や耳,にているか,立ち上がる,あるく,はしる,おちち,たべる）を基に，疑問に思うことを出させ，親が弱そうなアナウサギの赤ちゃんの様子について読み取っていくことを意識付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">アナウサギの赤ちゃんの生まれたばかりのときのようすや,大きくなっていくようすをよんで,ライオンの赤ちゃんやしまうまの赤ちゃんとくらべよう。</td></tr>
<tr><td>2　本時場面を音読する。
(1) アナウサギの赤ちゃんの様子を，読む観点をもって音読する。</td><td>
○　８つの観点を確認しながら音読をさせるようにする。</td></tr>
<tr><td>3　アナウサギの赤ちゃんが大きくなっていく様子を読み取る。
(1) 生まれたばかりのときの様子を読み取る。
○　大きさは子どもの人差し指くらいで，とても小さいことをとらえること
○「十日ほどで，目がひらく」という叙述から，生まれてすぐは目が見えないこと，毛も生えておらず，親には似ていないことをとらえること
(2) 自分で歩けるようになるまでの様子を読み取る。
○　寝てばかりいて一人では動けないこと，歩くまでに三週間もかかり，成長が遅いことをとらえること
(3) 自分でえさを食べるようになるまでの様子を読み取る。
○　三週間はおちちだけを飲むこと，三週間をすぎたころに，ようやく草もたべはじめることから，成長が遅くライオンに似ていることをとらえること</td><td>○　叙述を基に３つのまとまりを意識しながら考えさせる。
○　叙述を基に具体的にイメージできない叙述については，写真とつないだり，説明を加えたりすることによって理解できるようにする。

○「ねてばかり」の「ばかり」に着目し，自分では動くことができないことをとらえさせる。

○　時間の経過を表す言葉は，カレンダーなどを使って説明を補うことで，時間の経過を具体的にイメージすることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>4　アナウサギとライオン・しまうまの赤ちゃんを比べ，どちらに似ているかとそのわけを考える。
○　アナウサギのおかあさんはつよくはないけれど，すをつくることで，子どもをかくしてまもることができること</td><td>※　学習の足跡の掲示物を使い，アナウサギとライオン・しまうまと比べることでライオンとは親の様子が違うけれど，赤ちゃんの様子は似ていることを確かめさせる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・　アナウサギの赤ちゃんは，せいちょうするのがおそいから，ライオンににている。
・　アナウサギの赤ちゃんは一人ではなにもできないから，ライオンににている。</td></tr>
<tr><td>5　本時の学習で読み深め・確かめたことをまとめる。
(1) 本時で読み深め・確かめたことを書きまとめる。

〈学習のまとめ〉</td><td>※　親が赤ちゃんを守る方法として「巣を作って子どもを隠す」という方法もあることをまとめ，次時でそのことを明確にしていくことを意識付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">アナウサギの赤ちゃんはライオンとにていて，一人ではなにもできない。
だから，アナウサギのおかあさんは，土の中にすをつくって，赤ちゃんをかくしてまもる。</td></tr>
<tr><td>(2) 本時で使った読み方のまとめをする。
○　挿し絵と叙述をつないで書かれている内容を正しく読む
○　時間の順序や事柄の順序に気を付けて読む</td><td>※　側面の掲示物を利用して，本時での読み方について「読み方の種」として確認する。</td></tr>
</table>

第１学年○組　（公開授業○）

５．本　時（６／１４）　基礎・基本

６．本時の目標

○　ライオンとしまうまの赤ちゃんが自分で歩けるようになるまでの様子を挿し絵と叙述を基に読み取り，比べることで，親の強さによって，赤ちゃんの成長に違いがあることをとらえることができる。

○「生まれて三十分もたたないうちに」「つぎの日には」などの時間の経過を表す言葉に着目して，赤ちゃんの成長していく様子の違いを読む読み方を身に付けることができる。

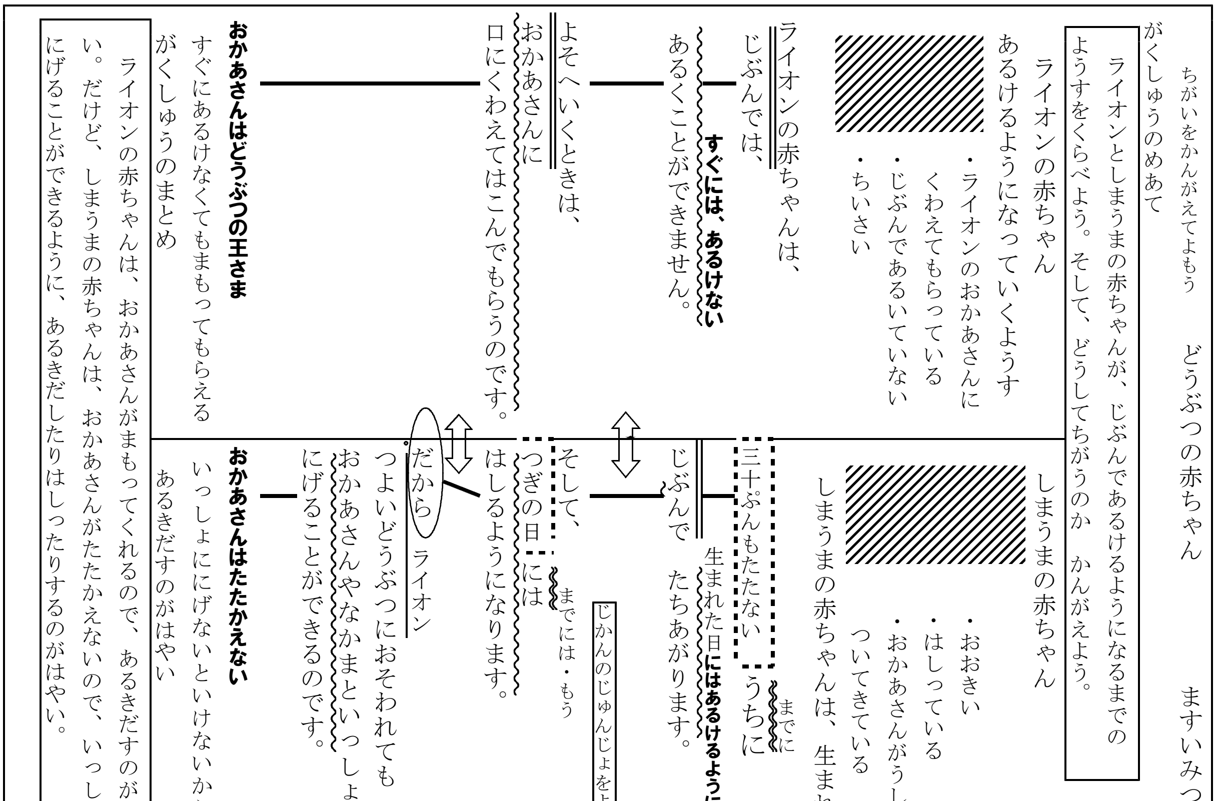
７．本時指導の考え方

前時までに子どもたちは，挿し絵と叙述をつないで，ライオンとしまうまの赤ちゃんは，親の強さによって生まれたばかりの時から様子が違っていることを読み取ってきている。

本時は，ライオンとしまうまの赤ちゃんが自分で歩けるようになるまでの様子を挿し絵と叙述をつないで読み取り，違いとそのわけをとらえる学習である。

そのために，まず，学習計画を基に，学習のめあてを確認し，場面の確認のために本時場面を音読させる。次に，ライオンとしまうまの赤ちゃんが自分で歩けるようになる様子を，挿し絵と叙述から読み深め，自分で歩くことができるまでの早さがずいぶん違うことを読み取らせる。その際，時間の経過を表す言葉に着目させながら読ませていく。そして，「なぜ，こんなに違うのか。」という疑問を「だから，つよいどうぶつ～」という叙述と，前の場面の「ライオンは，どうぶつの王さま」とつないで考えさせ，親の強さにわけがあることをとらえさせる。最後に，板書とプリントで読み深め・確かめたことを振り返り，次時の意欲付けをする。

８．板書計画



９．本時の展開

<table>
<tr><th>学習活動と内容</th><th>指導上の留意点（◎基礎・基本の重点）</th></tr>
<tr><td>1　本時のめあてを確認する。
〈学習のめあて〉</td><td>○　前時に学習した，生まれたばかりの様子を掲示物を使って振り返らせる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ライオンとしまうまの赤ちゃんが，じぶんであるけるようになるまでようすをくらべよう。そして，どうしてちがうのか　かんがえよう。</td></tr>
<tr><td>2　本時場面を音読する。
・　ライオン　２段落　・　しまうま　５段落
3　ライオンとしまうまが自分で歩けるようになる様子を読み取る。
(1) 挿し絵からわかることを発表する。
(2) 挿し絵と叙述をつないで話し合う。
○　ライオンはすぐには歩き出さないことをとらえること
○　しまうまは，３０ぷんもたたないうちに立ち上がることをとらえること
○　しまうまは，次の日には走り出すことをとらえること</td><td>○　時間の経過を表す言葉に気を付けて音読をさせる。
○　叙述からライオンの赤ちゃんはすぐに歩けないことを読み取らせる。
◎　しまうまの赤ちゃんについて，「三十ぷんもたたないうちに」「つぎの日には」という時間の経過を表す言葉に着目させ，子どもたちの生活の時間と比べながら，しまうまの赤ちゃんの成長の早さを読み取らせる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・　ライオンの赤ちゃんは，すぐに立ち上がらないし，あるけない。
・　ライオンの赤ちゃんは，おかあさんに口にくわえて，はこんでもらっている。
・　しまうまの赤ちゃんは，すぐに立ち上がって，つぎの日には，はしりだす。
・　しまうまの赤ちゃんは，生まれたその日にあるきだす。</td></tr>
<tr><td>4　ライオンとしまうまの赤ちゃんを比べて，違いとわけを考え，話し合う。
(1) 読み取った様子を比べて，違いを話し合う。</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">・　ライオンの赤ちゃんは，生まれてすぐは，あるけないけど，しまうまの赤ちゃんは，生まれて三十ぷんもたたないうちに立ち上がって，その日のうちにあるくようになるところが，ちがいます。
・　ライオンの赤ちゃんは，おかあさんにはこんでもらうのに，しまうまの赤ちゃんはつぎの日には，はしることができるところがちがいます。</td></tr>
<tr><td>(2) ライオンとしまうまの赤ちゃんの成長の早さに違いがあるわけを話し合う。
○　親の強さの違いから，赤ちゃんが守ってもらえるのか，守ってもらえないのかの違いが出てくることを読み取ること

5　本時のまとめをする。
(1) 本時で読み深めたことを書きまとめる。

〈学習のまとめ〉</td><td>◎「だからつよいどうぶつに～」の文とつないで，しまうまは逃げる立場にあることに気付かせる。
○　前時学習の「ライオンはどうぶつの王さまといわれます。」とつないで，ライオンは強い立場にあることを想起させる。

○　本時学習で読み深めたことを板書しておき，それを線でつないでいくことで，違うわけを書きまとめることができるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ライオンの赤ちゃんは，おかあさんがまもってくれるので，あるきだすのがおそい。だけど，しまうまの赤ちゃんは，おかあさんがたたかえないので，いっしょににげることができるように，あるきだしたり，はしったりするのがはやい。</td></tr>
<tr><td>(2) 本時で学習した読み方のまとめをする。
○　事柄の順序を正しく読む</td><td>◎　側面の掲示物を利用して，「読み方の種」とつないで確認する。</td></tr>
</table>